

TISTOU LES POUCEES VERTS



# チト

みどりのゆびをもつ少年

創立50周年記念作品





## ものがたり

ばら色の頬に金色の巻き毛のチト。  
裕福な両親に愛されて育った8才の少年チト。  
チトには不思議な力がありました。  
親指をあてると、どんな所にも花を咲かせ緑を  
育てることができるのです。  
刑務所、病院、貧民街・・・チトは街を花や緑で  
いっぱいにし人々を驚かせます。  
ある日、戦争のニュースが飛び込んできてチト  
のパパは大忙し。チトのお父さんは巨大な兵器  
工場を経営し莫大な富を得る兵器商人だった  
のです。それを知ったチトは…

## すべての子どもたちの中にチトは眠っている

演出 / 福永朝子 *Asako Fukunaga*

京都市立芸術大学美術学部卒業後、人形劇団京芸を経て1985年人形劇団むすび座へ移籍。2018年5月よりフリー。主な作品…舞台美術「名古屋心中」、美術「ピノキオ」、人形美術「名古屋市文化振興事業団創作オペラ「照手と小栗」など。その他幼児向き作品の美術・演出・脚本を多数手掛ける。第25回全国児童・青少年演劇協議会奨励賞受賞。

「少年の指のふれる所なら、どんな所にも花や草が芽吹く。そしてその子のパパは巨大兵器工場の社長だった。」このエスプリの効いたアイデアを発想したのは、フランスのモーリス・ドリュオン。対ナチスのレジスタンスに参加し、戦後文化大臣にもなった小説家です。この原作を劇的に肉付けした篠原久美子さんは、チトと彼を取り巻く人々を生き生きと立体的に描きあげました。そして植物が成長するために大切な光、水、風、大地・・・「それらは全ての子どもたちが成長するために必要なものである」という比喻を使い、祈りにも似たメッセージを溶け込ませています。

植物の力で戦争が回避できるなんて、そんな夢のようなことは現実には起こるはずはありません。でも置き換えると花=文化の力だと私たちは考えます。つまりこの作品を上演すること自体がチト的行為であり、今こそ取り上げるべきテーマだと思います。そして観ていただくのはおとなだけでも駄目、子どもだけでは不十分、おとなと子どもと一緒に観ることに意味があります。

今回は人形劇の周辺で使われてきた手法をバラエティ豊かに採用しました。様々な人形様式、オブジェクト表現、仮面、マイム、映像、コマ撮りアニメなどを使い、対立と緩急を呼び起こす構成に仕上げました。夢中になって観ていただいた後に、おとなと子どもが向き合いどんなつぶやきや語り合いが始まるのか、私たちも興味が尽きません。すべての子どもたちの中にチトの心は眠っている、そのことに勇気もらいながらこの作品を世に問いたいと思っています。



原作 / 「TISTOU LES POUCES VERTS」

作 / Maurice DRUON (著作権代理: (株)フランス著作権事務所)

訳 / 安東次男 (「みどりのゆび」岩波書店刊)

脚本 / 篠原久美子 (劇団劇作家)

演出 / 福永朝子

演出補 / 大野正雄

美術 / 宮武史郎 長谷川真代 世宮友江

音楽 / 八幡美佳 ノノヤママナコ(マナコ・プロジェクト)

音響 / ノノヤママナコ(マナコ・プロジェクト)

振付 / LONTO(クラウンファミリー・プレジャーB)

衣装 / 長谷川真代

照明 / 若狭慶大(藤井照明)

映像 / 牛嶋宏樹

アニメチーム / 宮武史郎 伊藤博美 福永朝子

舞台監督 / 小辻賢典

宣伝美術 / イラスト: 宮武史郎 デザイン: 杉江智子(デザインキッズ)

写真 / 服部義安

制作 / 吉田明子

